

PRESS RELEASE

2013年2月26日



企画展

渋沢栄一と 王子製紙株式会社

～国家社会の為に此の事業を起す～



日本の近代化を推進した渋沢栄一と洋紙産業の始まり。

渋沢史料館（東京都北区西ヶ原・飛鳥山公園内）では、『渋沢栄一と王子製紙株式会社～国家社会の為に此の事業を起す～』を、2013年3月16日（土）～5月26日（日）まで開催します。渋沢栄一（1840～1931）は明治維新の後、「あらゆる事業を盛んにするためには、人々の知識を高める書籍や新聞などの印刷物の普及が必要」と考え、そのためには安価で大量印刷が可能な洋紙製造を国産化すべきだと考えました。そして1873（明治6）年、「抄紙会社」を創立。後の王子製紙株式会社（現・王子ホールディングス株式会社）の母体となり、本年で創立140周年を迎えました。本展ではこれを記念して、創立後に幾多の困難に直面した栄一が、悩みながらも同社を製紙業界のリーダー的存在として育成し、次代へ引き継ぐ様子を中心に、栄一と王子製紙との関わりをご紹介します。

- 会期：2013年3月16日（土）～5月26日（日）
- 会期中の休館日：3/18・21・25、4/1・8・15・22・30、5/7・13・20
- 時間：渋沢史料館 企画展示室 10時～17時 ※最終入館は16時半
- 入館料：大人300円／学生（小中高生）100円 ※その他、各種割引有
- 主催：渋沢史料館／後援：王子ホールディングス株式会社、公益財団法人 紙の博物館

みどころ

栄一が、洋紙製造の国産化をめざし、試行錯誤をした創業期から、市場拡大へ導くべく製紙技術の研究開発を強化した発展期、そして、現在の王子ホールディングス株式会社にも受け継がれている栄一の「道徳経済合一説」を基本とした企業理念、その社会貢献活動の原点まで。栄一と王子製紙の関わりを貴重な史料でご紹介します。



講演会

4/20（土）13:30～15:00

『日本の近代化における和紙から洋紙への転換の意義』 ※事前申込制（先着40名） 参加費無料*

講師：尾鍋史彦氏（東京大学名誉教授、前日本印刷学会会長）

内容：和紙から洋紙への転換の意義、またその過程で栄一が果たした役割を考えます。

イベント

学芸員によるギャラリートーク

4/28（日）5/6（月・祝）14:00～14:30 渋沢史料館 企画展示室 ※申込不要 参加費無料*

*入館券は必要。

渋沢栄一とは？

渋沢栄一は1840（天保11）年2月13日、現在の埼玉県深谷市血洗島の農家に生まれました。藍玉の製造・販売などの家業を手伝うかわら、従兄の尾高惇忠から「論語」など漢籍を学びます。27歳の時、15代将軍・徳川慶喜の実弟・徳川昭武に随行し、パリ万国博覧会を見学するほか欧州諸国の実情を見聞し、先進諸国の社会の内情に広く通ずることができました。明治維新後、明治政府の一員として新しい国づくりに深く関わります。1873（明治6）年に大蔵省を辞した後、栄一は「第一国立銀行（現・みずほ銀行）」の総監役（後に頭取）に就任。それ以来、約500にのぼる株式会社の創立・育成に力を入れ、また、「徳経経済合一説」を説き続けました。栄一は、約600の社会・公共事業の支援並びに民間外交に尽力し、多くの人々に惜しまれながら1931（昭和6）年11月11日、91歳の生涯を閉じました。



渋沢栄一（1840～1931）

渋沢史料館とは？

渋沢史料館は、渋沢栄一の事績と思想に関する資料を収蔵、展示する登録博物館です。1982（昭和57）年に開館、2012（平成24）年に開館30周年を迎えました。常設展示室では、渋沢栄一の生涯と幅広い分野にわたる事績に関する資料を展示しています。本館に隣接する旧渋沢庭園は旧渋沢邸の一部で、大正期の2つの建物「晩香廬」と「青淵文庫」（いずれも国指定重要文化財）が当時のままの姿で残っています（晩香廬と青淵文庫は午前10時～午後3時45分に公開しています）。



渋沢史料館本館



晩香廬



青淵文庫

本館のミュージアム・ショップでは栄一に関する書籍や当財団の機関誌、絵はがきや一筆箋・色紙などを販売しています。

【アクセス】

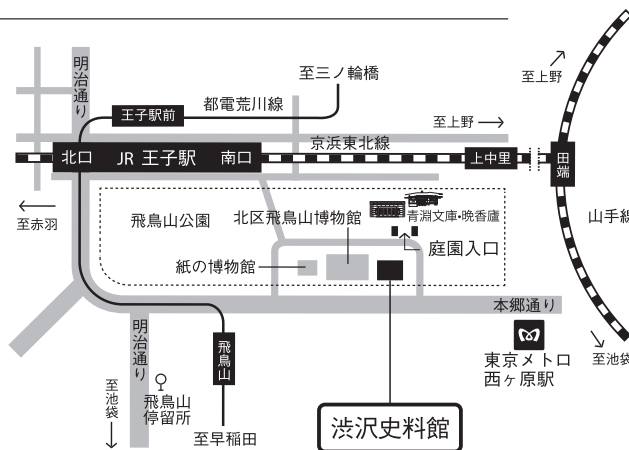
JR 京浜東北線王子駅南口下車徒歩約5分
 東京メトロ南北線西ヶ原駅下車徒歩約7分
 都電荒川線飛鳥山停留所下車徒歩約4分
 都バス飛鳥山停留所下車徒歩約5分
 ※駐車場はありませんので、公共の交通機関をご利用下さい。

【お問い合わせ】

渋沢史料館 〒114-0024
 東京都北区西ヶ原 2-16-1（飛鳥山公園内）
 TEL: 03-3910-0005 <http://www.shibusawa.or.jp>



公益財団法人 渋沢栄一記念財団
渋沢史料館
 Shibusawa Memorial Museum



記事掲載のお願い

以下の資料をご用意しております（画像は300KB位の小さなものをご用意する予定です）。
 掲載を希望される場合には、下記までお電話を頂くか、次頁の掲載申請書に必要事項をご記入の上ファックスでお申し込みください。



① 渋沢栄一肖像 [明治16年(1883年)]
 ※渋沢史料館所蔵



② 王子製紙会社の経営陣（於王子工場）[明治26年(1893年)]
 ※公益財団法人 紙の博物館所蔵



③ 飛鳥山からみた王子製紙株式会社
 [明治44年(1911年)以前]
 ※渋沢史料館所蔵



④ 王子製紙株式会社中部（なかべ）工場 割木機
 ※渋沢史料館所蔵



⑤ 武陽王子飛鳥山真景 鉄斎管真郷画 [明治21年(1888年)]
 ※独立行政法人 国立印刷局王子工場所蔵



⑥ 第一号抄紙機（「王子製紙会社略図」より） 村井静馬画
 [明治10年(1877年)]
 ※渋沢史料館所蔵



⑦ 「東京王子製紙会社」黒塗横看板 [明治23年(1890年)]
 ※公益財団法人 紙の博物館所蔵



⑧ 王子製紙会社 印半纏
 ※公益財団法人 紙の博物館所蔵

広報用画像データ使用申込書

公益財団法人 渋沢栄一記念財団 広報担当行

Fax・03-5567-7289

■ご掲載にあたってのお願い

- ・画像データの提供は、本展をご紹介頂ける場合のみとさせていただきます。
- ・画像データは、メール添付にてお渡しします。ご利用後は画像データの破棄をお願いします。
- ・写真はトリミングせず、全図でご使用ください。また、文字を重ねたりはご遠慮ください。
- ・資料キャプションとクレジットを明記してください。
- ・基本情報の確認のため、入稿前の校正原稿をお送りください。
- ・掲載後の見本誌を2部ご送付くださいますよう、お願い致します。

申込日 年 月 日 ()

貴社名

ご担当者様名

ご連絡先 TEL FAX

E-mail

掲載媒体名

発行予定日

発行部数

定価

掲載予定コーナー名

画像の掲載サイズ

企画展『渋沢栄一と王子製紙株式会社 ～国家社会の為に此の事業を起す～』

<報道用写真>ご希望の番号に○をつけてください

1. 渋沢栄一肖像 [明治16年(1883年)] ※渋沢史料館所蔵
2. 王子製紙会社の経営陣(於王子工場) [明治26年(1893年)] ※公益財団法人 紙の博物館所蔵
3. 飛鳥山からみた王子製紙株式会社 [明治44年(1911年)以前] ※渋沢史料館所蔵
4. 王子製紙株式会社中部(なかべ)工場 割木機 ※渋沢史料館所蔵
5. 武陽王子飛鳥山真景 鉄斎管真郷画 [明治21年(1888年)] ※独立行政法人 国立印刷局王子工場所蔵
6. 第一号抄紙機(「王子製紙会社略図」より) 村井静馬画 [明治10年(1877年)]
※渋沢史料館所蔵
7. 「東京王子製紙会社」黒塗横看板 [明治23年(1890年)] ※公益財団法人 紙の博物館所蔵
8. 王子製紙会社 印半纏 ※公益財団法人 紙の博物館所蔵